

キーワードは「挑戦」と「健康」!

今年度も4か月近くが過ぎ、1年の3分の1が間もなく終わります。皆さんにとってこの4か月間はどのような期間だったのでしょうか。全員に確かな成長が見られた4か月間だったとともに、この期間で自身の課題も見えてきたのではないかと思います。

明日から夏休みです。日常の学校生活のように、時間や活動内容が決められており、それを守って生活する毎日から、多くを自分自身の管理の下で生活する毎日となります。それだけに、自分自身の頑張りが問われることとなります。

夏休みが充実したものになるかどうか、それは皆さん一人一人にかかっています。充実させるための努力をどれだけやるか、それも一人一人にかかっています。つまり、夏休みの生活は皆さん自身の「自己決定」が基盤となっているとも言えます。自分自身を律しながら、学習や活動を自主的に、そして粘り強く取り組むことを自らの課題として、強い気持ちで取り組みましょう。

夏休みを充実させるための、全員に共通するキーワードは2つ。「挑戦」と「健康」です。達成感と次への決意、やる気に満ちた皆さんと1か月後に再会できることを楽しみにしています。充実した夏休みを過ごしてください。

挑戦 … 意味ある具体目標を設定し、達成に向けて取り組もう!
健康 … 感染症・熱中症予防に努め、規則正しい生活を送ろう!

「お手伝いしましょうか?」の一言に心温まる

先日、ポスターを廊下のどこに貼ろうかと悩んでいたところに通りかかった環境整美委員長の小野汀さんからかけてもらった一言です。「ポスター貼りは自分たちの仕事ですから」と話していましたが、仕事であることとは別に、ごく自然に「お手伝いしましょうか?」の一言を相手にかけることのできる小野さんの心配りに感動を覚えました。

廊下を歩いていると、多くの生徒の皆さんが「おはようございます!」「こんにちは!」といった元気なあいさつの声を当たり前のようにかけてくれます。これは、大中学生の素晴らしい一面です。来校されるお客様からも、大中学生のあいさつのよさに対してお褒めの言葉をいただくことがよくあります。

しかし、今回の「お手伝いしましょうか?」の言葉は、単なるあいさつとは異なります。その言葉には、相手に対して労をいとわず自ら手伝おうという意思が込められています。あいさつだけで通り過ぎず、足を止めて自分に声をかけてくれたのが小野さんでしたが、実は「〇〇しましょうか?」と職員に声をかけてくれる生徒は他にも大勢いるのです。大中学生の素晴らしさです。

後日、自分がこのポスターを一人で貼っていたときに、職員から声をかけられました。「お疲れさまです」の一言ではなく、前回と全く同じ「お手伝いしましょうか?」の言葉をかけてもらったことに、温かさとともに不思議さを感じました。

1枚のポスターをきっかけに、生徒、職員の2人から、相手を思いやる温かい言葉の大切さに気付かせてもらいました。こんな言葉が多くあふれる大形中を、校長としてとても誇りに思います。



夏休み前の授業風景。真剣に、そして積極的に授業に参加!さすが大中生!



声をかけてくれた職員は…高尾先生でした!

水泳見守りボランティアに感謝!

例年、水泳授業の際には、地域ボランティアの方から生徒の見守りを行っていただいています。

今年度は保護者からもボランティアを募ったところ、8人の方からお手伝いの申し出をいただきました。そのおかげで、安全を確保しながら水泳授業を実施することができました。ボランティアで見守りをしてくださった保護者・地域の皆様、ありがとうございました。



大形中学校 校長室だより

夢・希望・未来

令和4年7月22日

第11号